



牟尼の原像 ～ジャイナ教が今に伝えるもの～

矢島道彦 駒澤大学仏教学部客員教授

11月4日(土) 13:30～16:50

11月5日(日) 10:30～15:00

受講料 4,800 円

【講師からひと言】

ジャイナ教の教団のなかで僧侶はムニとかサードゥと呼ばれていますが、かれら出家者の姿には古代インドの宗教世界を彷彿とさせる何かがあるように思われます。とくに裸行派(空衣派)の僧侶は、アヒンサー(不殺生)や無所有の教えを今も厳格に守り続けており、在俗の信徒たちから絶大な尊敬を集めています。ジャイナ教の研究を専門とする私には、そこにかつてムニと呼ばれた人々(その中には釈迦牟尼仏もきっと含まれます)の原像が見え隠れしているようにも思われます。何が仏教とジャイナ教を分けたのでしょうか、また、なぜ仏教はインドで滅びたのにジャイナ教は生き残ったのでしょうか。今回の講義では、こうした問題を念頭におきながら、仏教とジャイナ教を比較してみたいと思います。図像資料も用いて、みなさんと楽しく学びながら、時空を超えた古代インドの宗教世界にみなさんをお連れしたいと思います。

(『受講の手引き 2017年度』より)

<お申込み・お問合せ先>

中村元記念館

TEL0852-76-9593

FAX0852-76-9693